

「震災伝承検討会議」の 結果概要

平成28年11月28日

震災伝承検討会議(第3回)資料

第1回 震災伝承検討会議の議題

- (1)「震災伝承検討会議」の役割・スケジュール
- (2)「石巻市震災伝承計画」の枠組み(案)
- (3)震災伝承の現況と課題
- (4)震災伝承等に関する意見・意向

第2回 震災伝承検討会議の議題

- (1)第1回検討会議を振り返る
- (2)現地視察報告を確認・共有する
- (3)石巻市における震災伝承への取り組みを共有する
- (4)今後の進め方とスケジュールを確認・共有する
- (5)今後の震災伝承等に関して協議

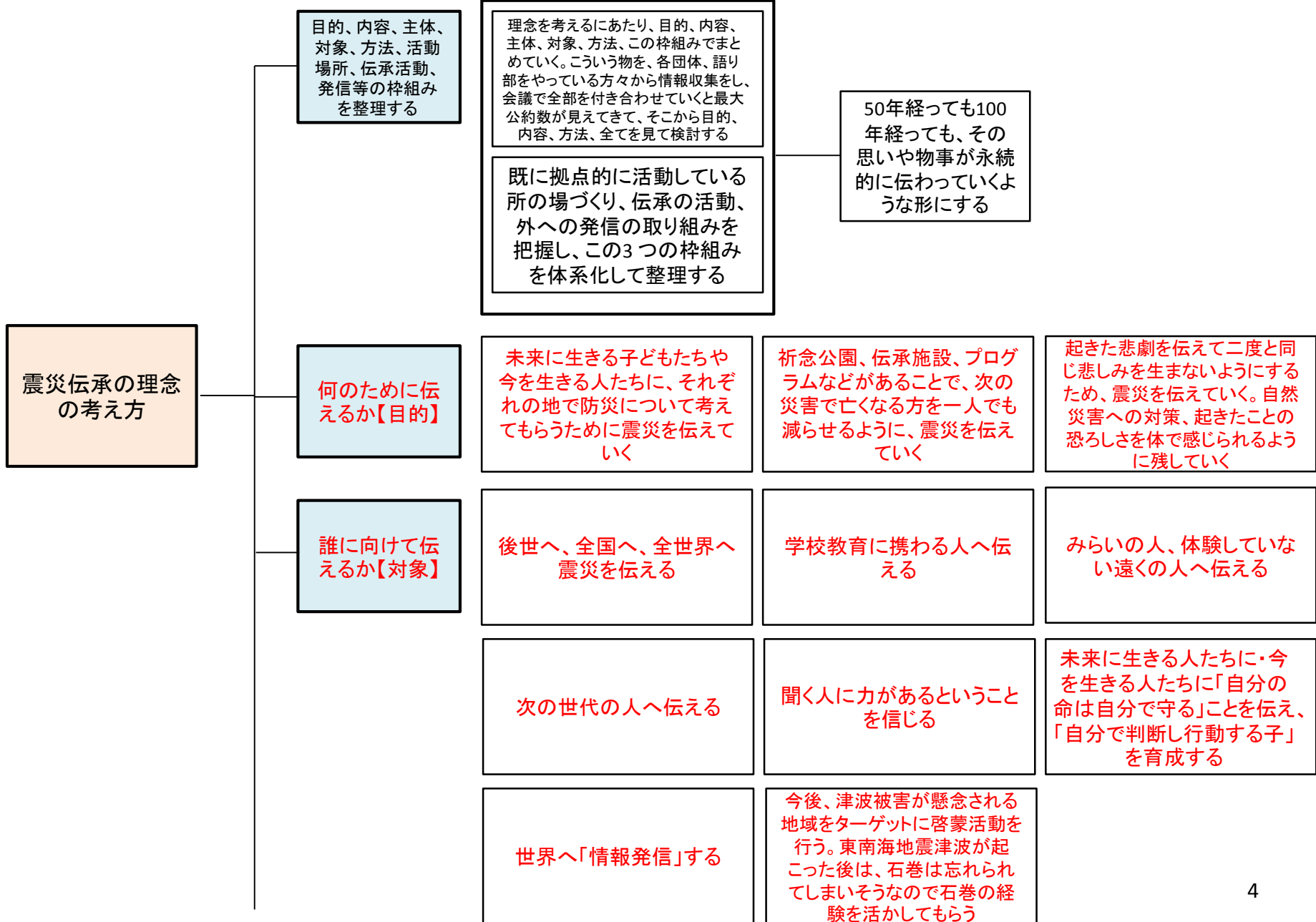
意見の振り返り

- 第1回会議では、意見が「震災伝承の理念の考え方」、「伝承する内容」、「伝承の方法」に概ね集約され、その他に「情報館のあり方、直すべき点」などについて意見が出された。
- 第2回会議では、「震災伝承の理念の考え方」にテーマを絞り議論
- 第1回会議後には現地視察も実施。視察参加者による視察報告にて意見聴取を実施した。

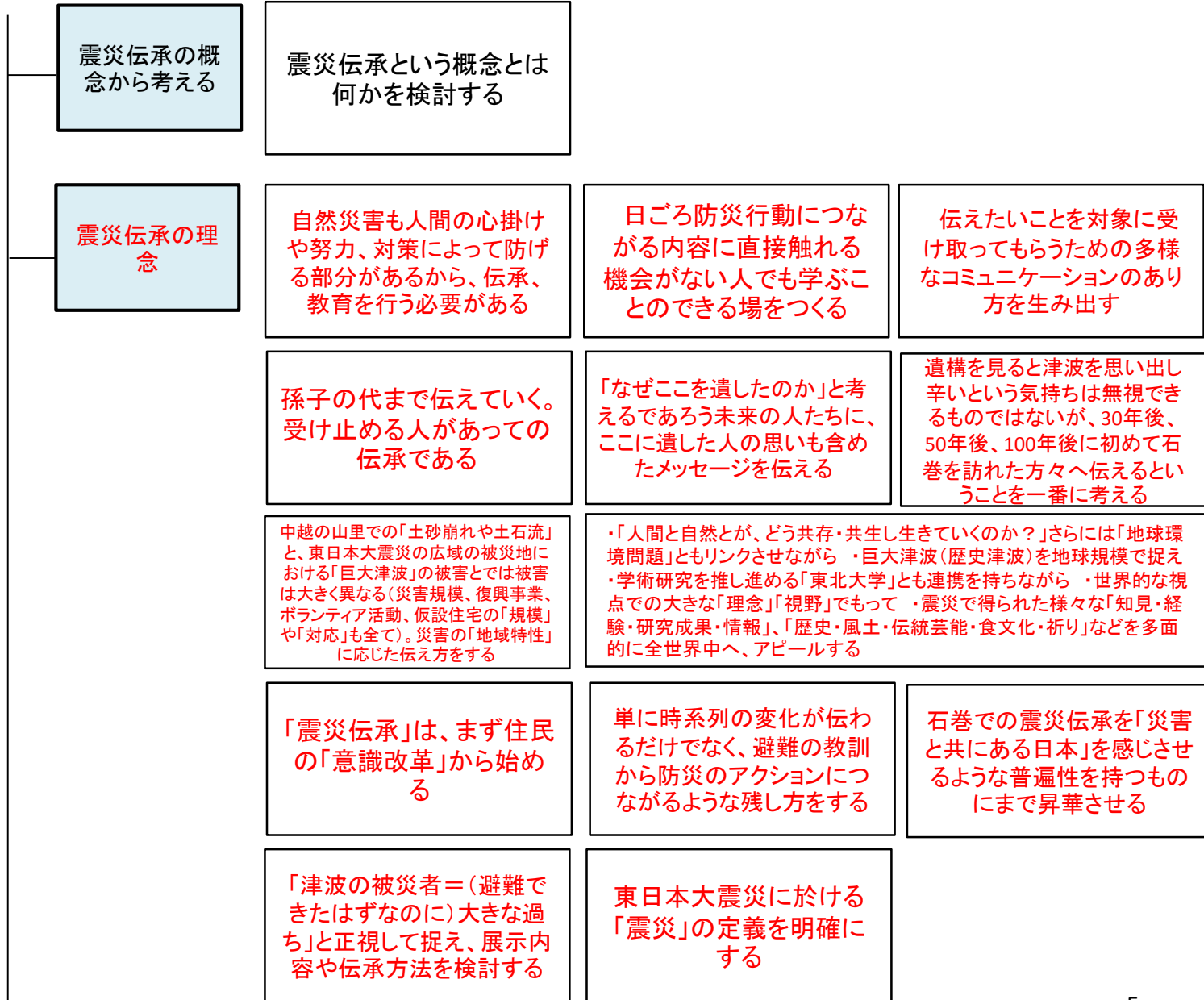
意見の分類

1. 震災伝承の理念の考え方
2. 伝承する内容
3. 伝承の方法
4. 施設のあり方

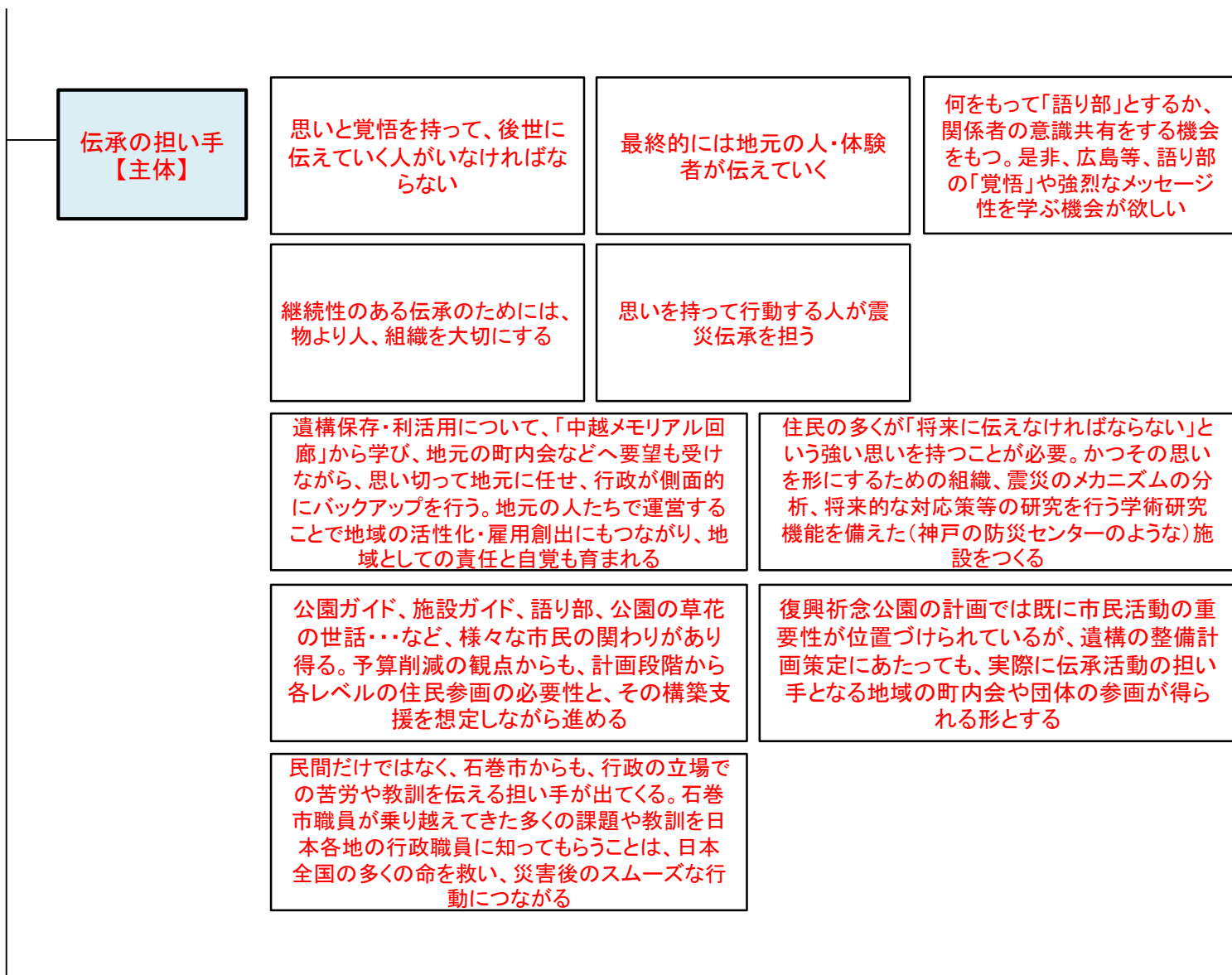
1. 震災伝承の理念の考え方



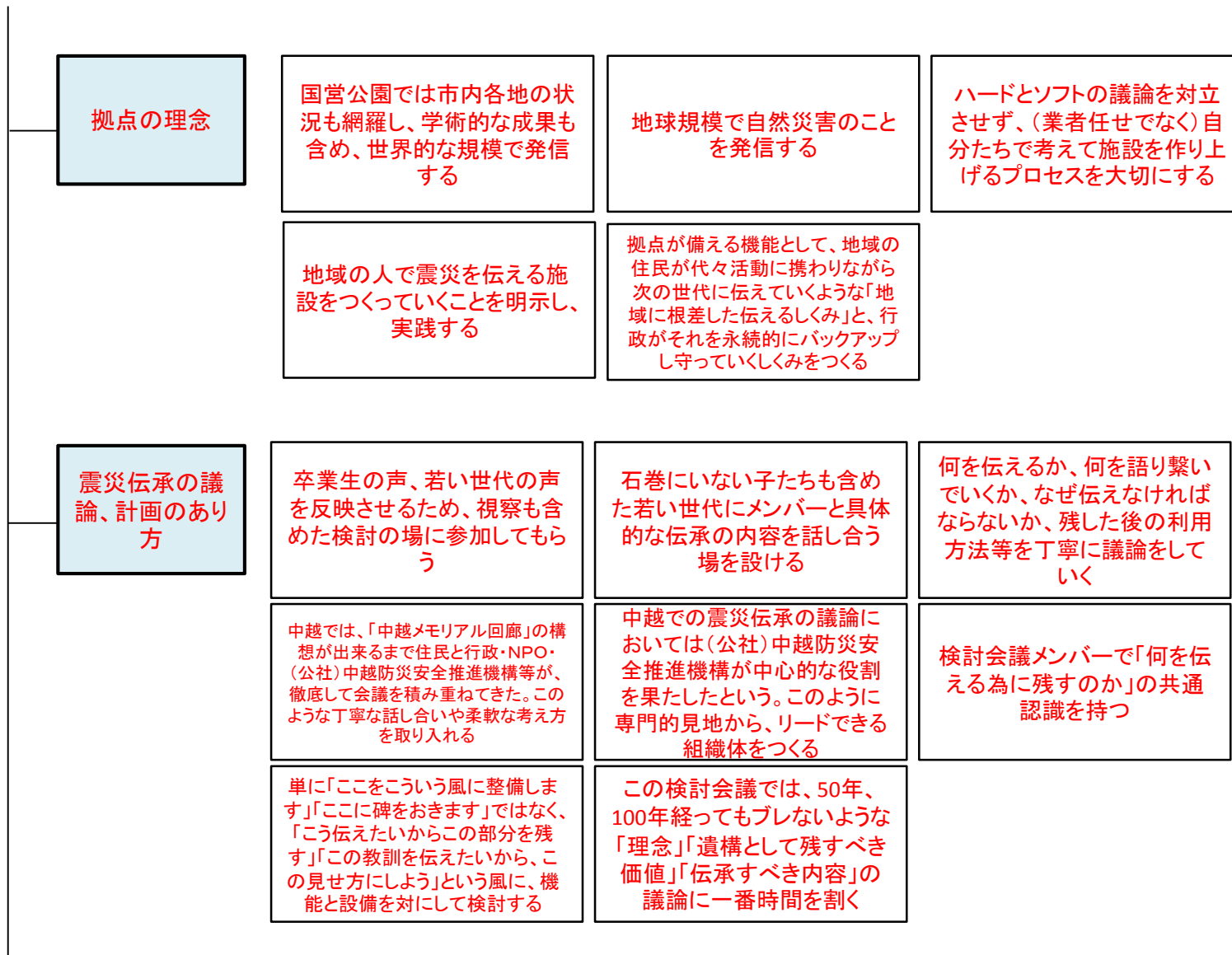
1. 震災伝承の理念の考え方



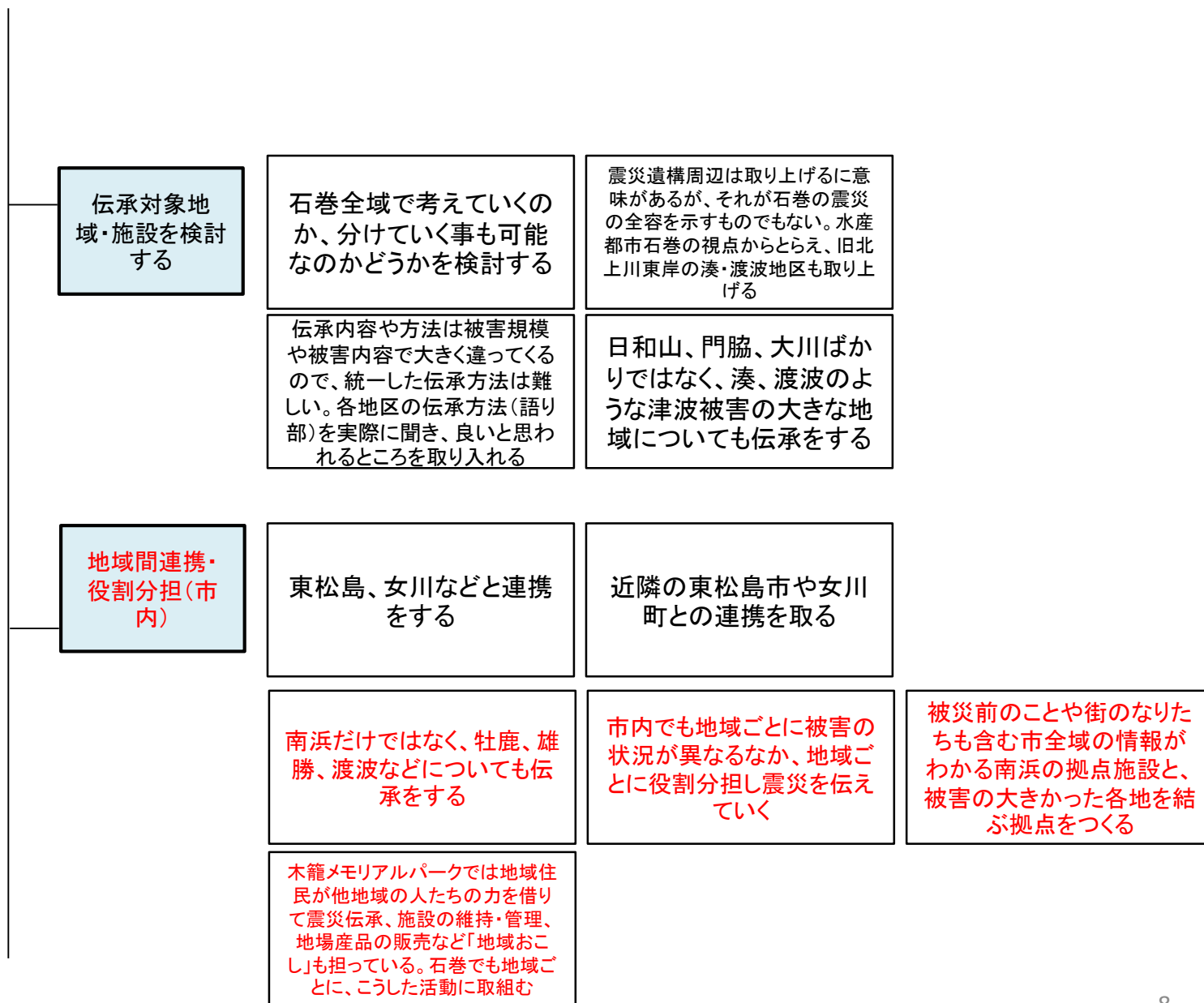
1. 震災伝承の理念の考え方



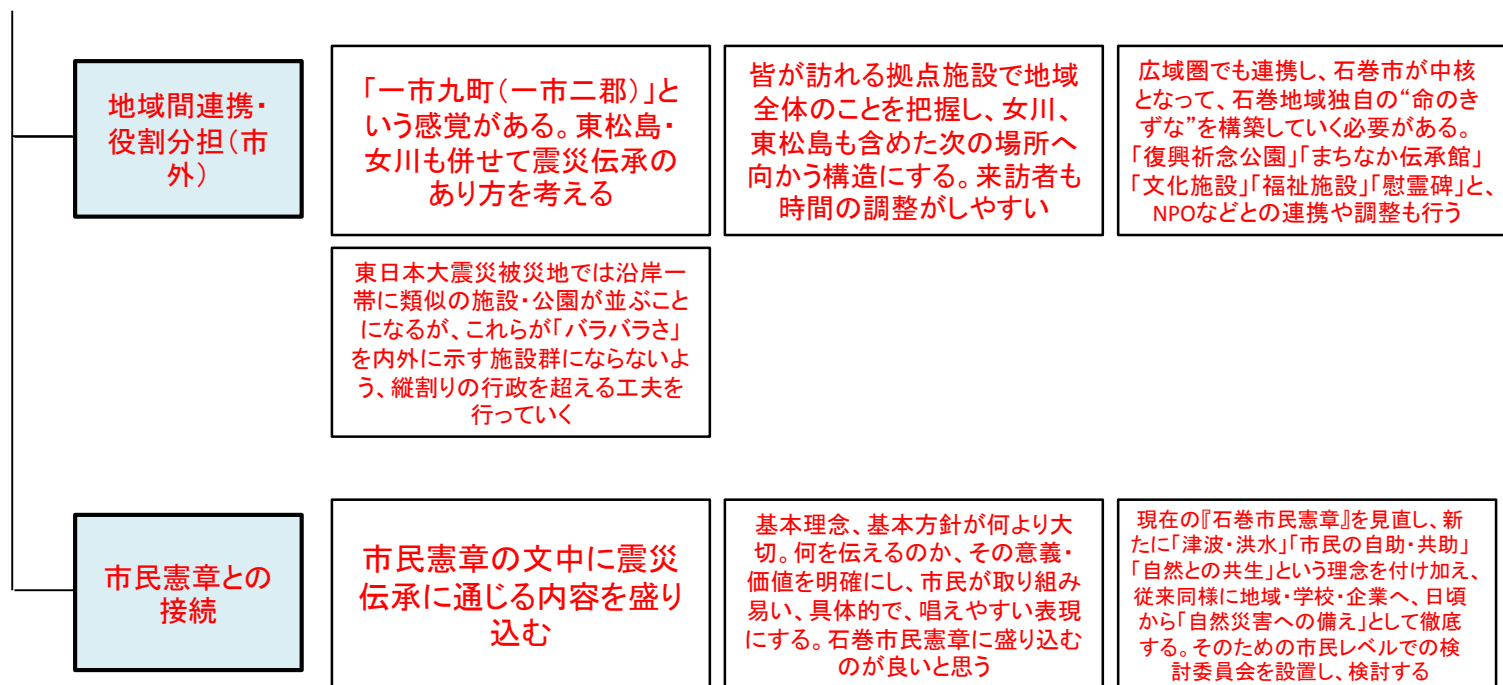
1. 震災伝承の理念の考え方



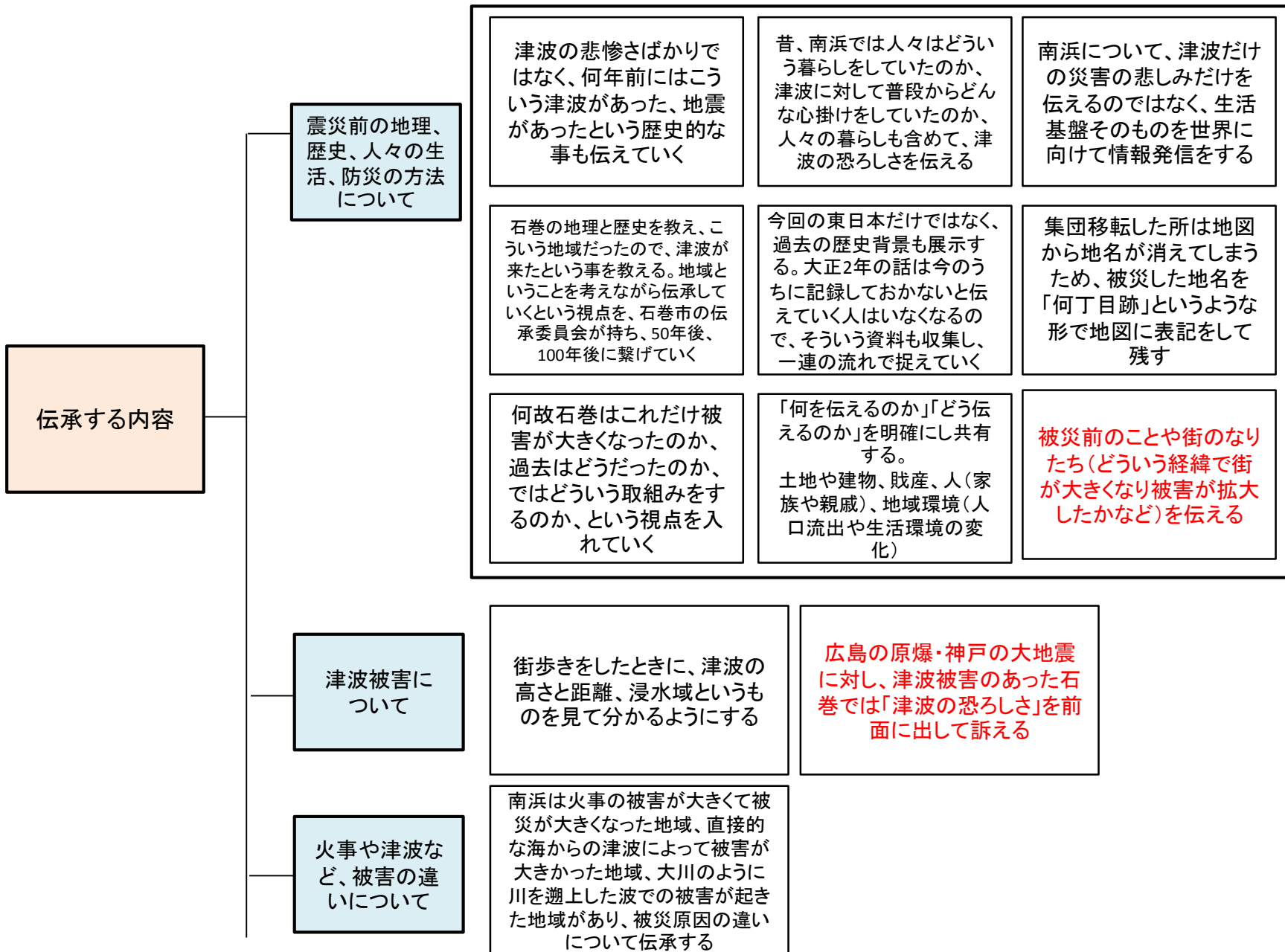
1. 震災伝承の理念の考え方



1. 震災伝承の理念の考え方



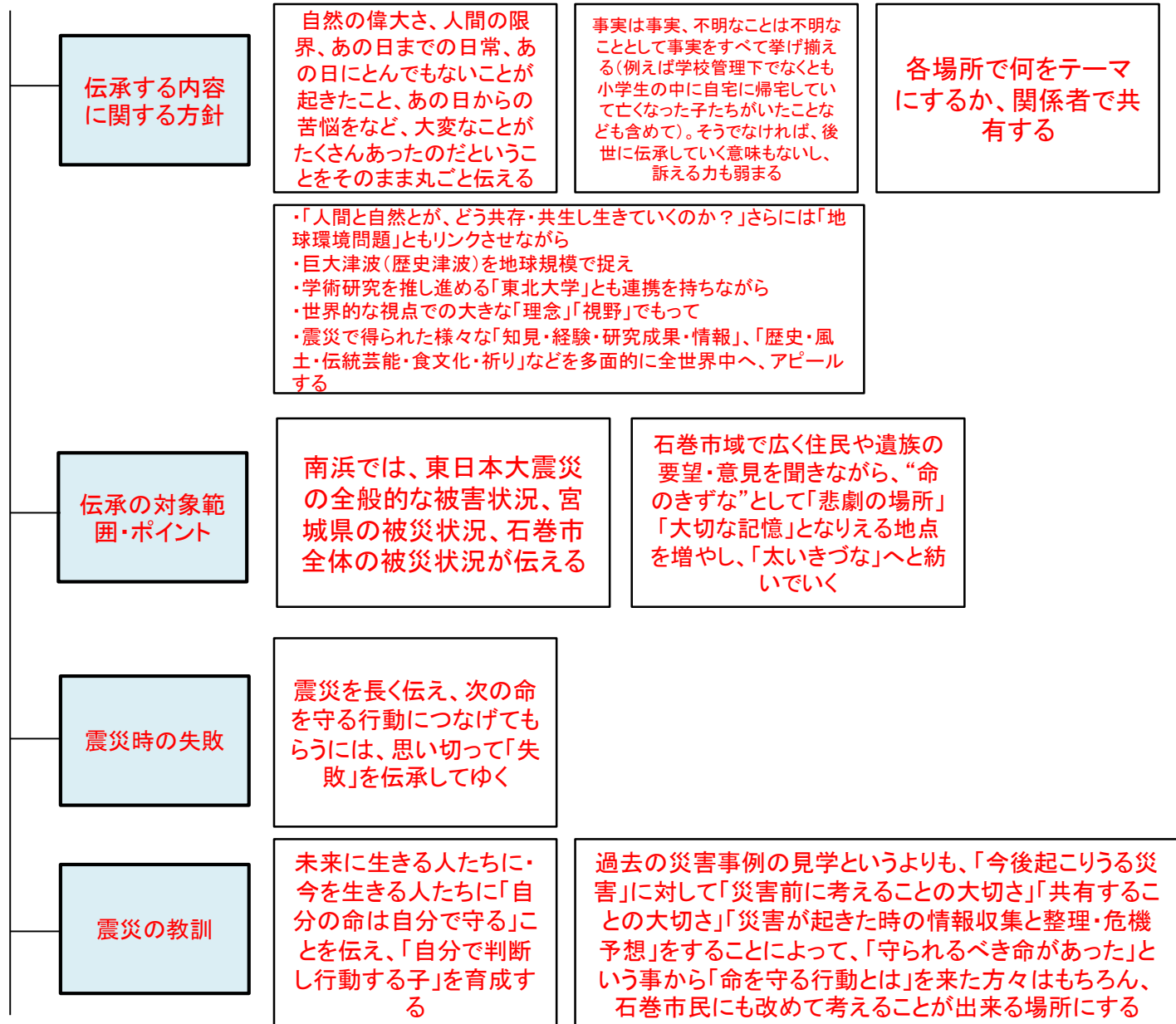
2. 伝承する内容



2. 伝承する内容

大規模な津波火災について	一般的に、津波大火という概念で言われているが、門脇大火である。言葉の使い方自体も、概念が違ってくるので、門脇大火という言葉で、概念として捉える
小規模な津波火災について	門小だけが、大火の震災遺構ではない。焼けた大木、黒くなった石垣が黒くなっている。今回の震災工事で市営住宅を建てているが、その背後にも、家がぶつかって燃えて、擁壁に焼けた痕跡があった。そういう物は本来保存する
災害医療について	今回の災害で石巻市の災害医療が大きく変わったことを残し、伝承する
集団生活再建について	津波の被害にあった方、亡くなった方が今、メインで議論されているが、財産を失い、集団移転している方々も犠牲者であることを含めて伝承をする
NPO、個人活動について	石巻市は最も多くのボランティアやNPOの支援を受けたにも関わらず、外部からのこれまでの支援に対する公式の御礼の機会すら設けられていない。今後、石巻訪問する多くの方々は「支える／支えられる」のどちらの立場でも学びを得てもらいたいため、被害の実情だけでなく、支える側の貢献も伝えられるような計画をする

2. 伝承する内容



2. 伝承する内容

命の大切さについて	「命の大切さ」「大災害が発生したとき命を守るためにどうすれば良いか」を学んでもらう
防災計画、取組みについて	防災教育の重要性を改めて認識し、行政、幼児・小学生・中学生・高校生・大学生・会社などの防災教育を見直す
復興状況について	千年に一度と言われる震災を体験した者として、防災教育の観点から、自分たちがどのように立ち直ったかを後世に伝える
支援に対する感謝	震災支援を全国や全世界中の人々から支援を受けた立場として、その恩返しに被害の現状を後世に残すことだと強く感じました
個別の内容	日和幼稚園児6人が亡くなったという事実・教訓は重い。「幼い命が津波で失われた」という事実・悲しみを行政も積極的に受け止め、多くの人たちが車と共に山際に打ち付けられ、亡くなった津波大火(門脇大火)を伝承する意味でも「メモリアル回廊」に組み込む

3. 伝承の方法

伝承の方法

学校教育の中で
伝承・防災教育
をする

学校教育の中で防災教育を進
めていく

学校教育で、津波が来た事、地震が
来た事、何年も前からこんな風に繰り返
しながらやってきて、人々がどう
いった力で這い上がってきたかという
石巻の歴史を伝えていく

学校教育のなかでの震災教育の位置づ
け、また震災を子どもたちにどう伝えてい
かを検討する。例えば「自ら命を守る」「自
分で考え判断する子どもを育成する」と
いった狙いを打ち出し、指導する

**計画的・実践的な防災教育
を推進する。教育課程の中
に位置付ける**

教育委員会とタイアップして伝
承を考えていく。副読本など教
材化についても検討する

そなえ館では義援金の残りの一部を
学校の防災教育へ補助している。民
間・行政のみならず、学校教育の中
に震災伝承を位置付け、こどもたちが
伝承の担い手になっていく

防災教育の重要性を改めて認
識し、行政、幼児・小学生・中
学生・高校生・大学生・会社などの
防災教育を見直す

家庭の中で伝
承をする

最小のコミュニティーである家
族の中で伝承をする。備えや
災害時の待ち合わせ場所・待
機日数などを決めておく

人から人に伝えるものとして、親から
子、子から孫へと家族間での伝承や
語り部活動などがあるが、他の伝達方
法(例えば口承音楽のような)も作り
出していく

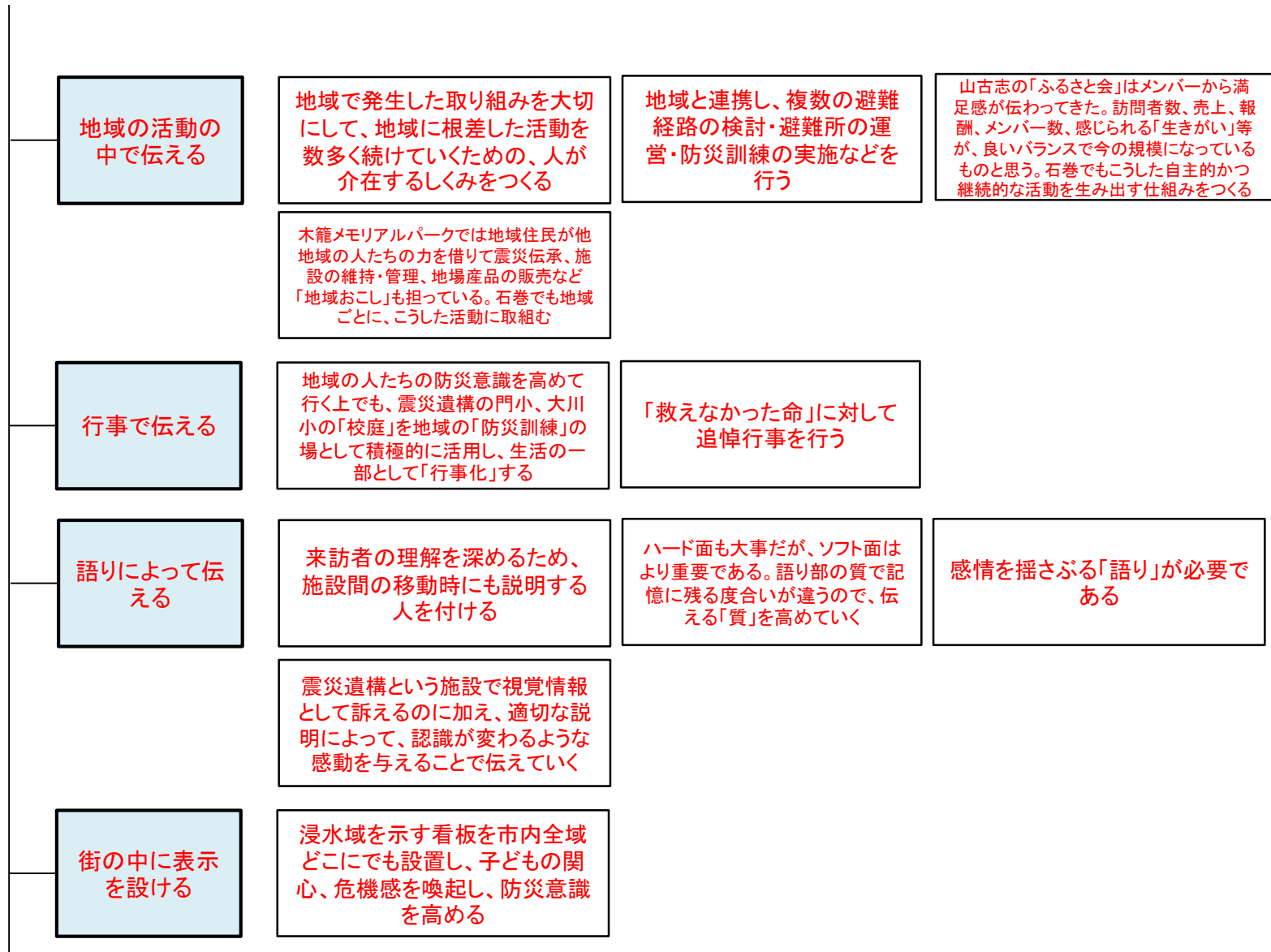
日常生活の中
で慣習として伝
える

広島、長崎のようにサイレ
ンで震災発生の時刻を知
らせる

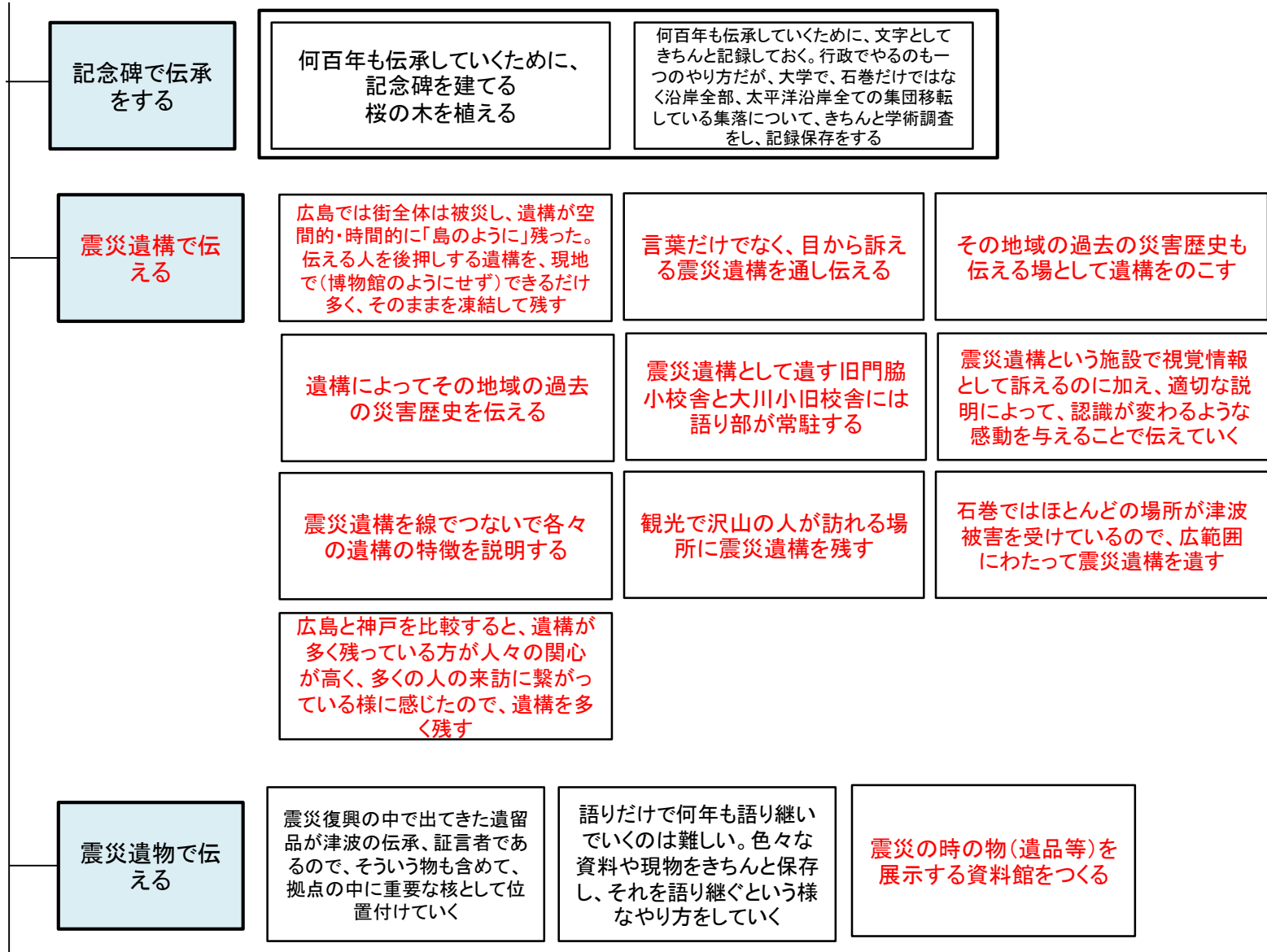
「はだしのゲン」や「ガラスのうさ
ぎ」のような絵本で、地域に育
つ子どもに身近で当たり前のも
のとして震災を伝える

終戦から70年が経つ今、広島では「体験
者がいなくては来る意味がないのでは」と
いう声が上がってきているが、体験者がい
なくなっても伝わるように、生活の中で慣
習として伝えていく

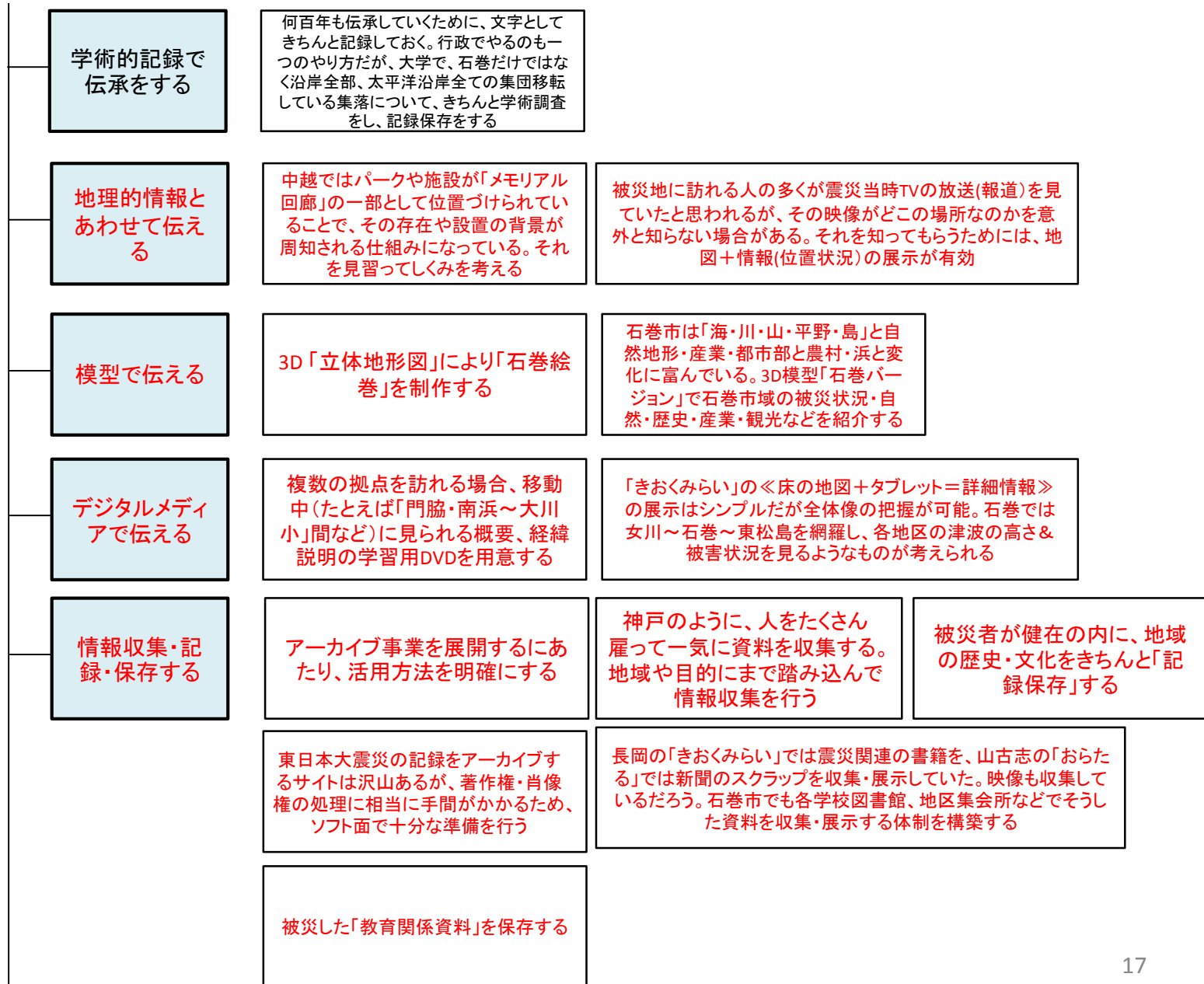
3. 伝承の方法



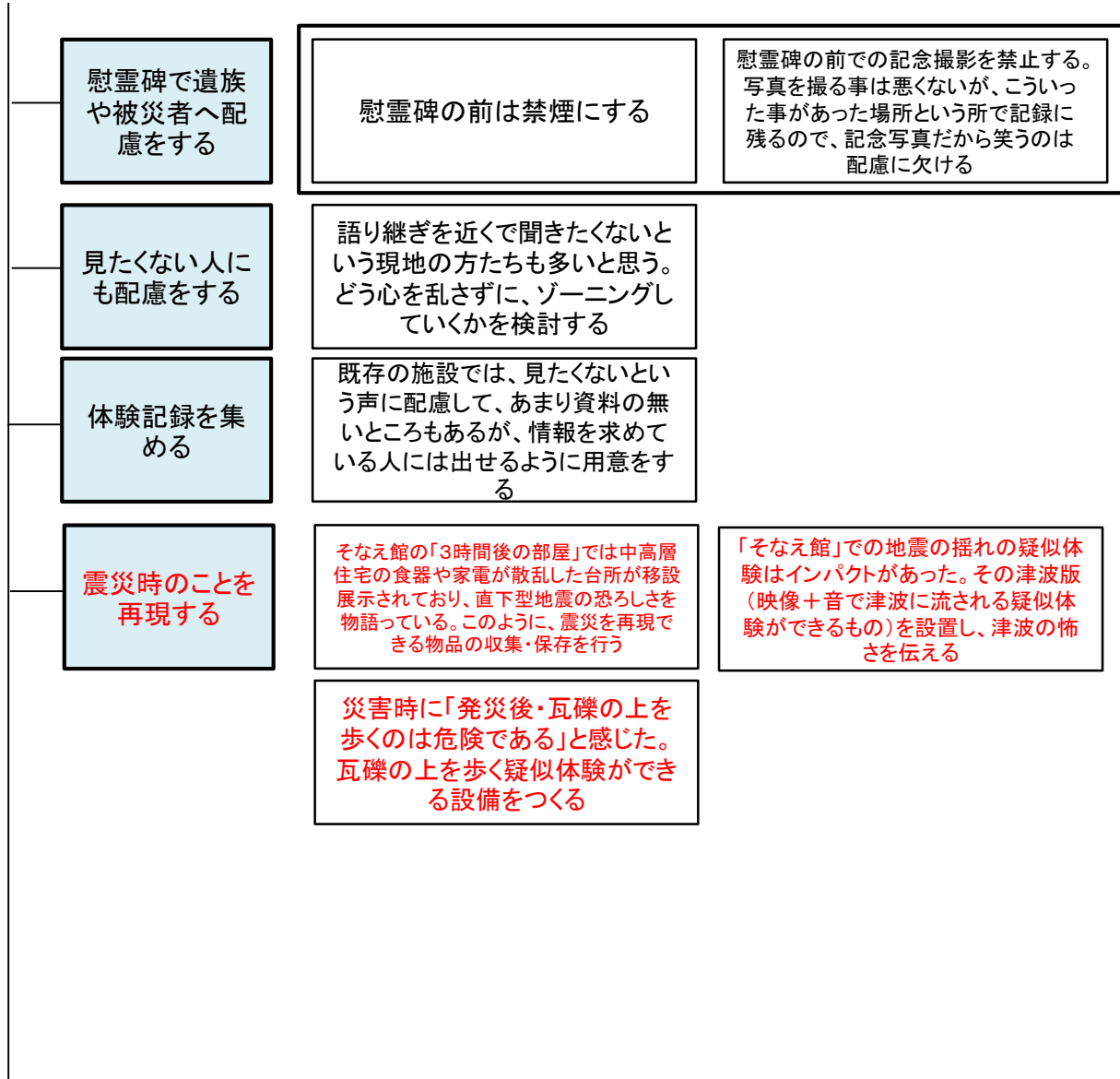
3. 伝承の方法



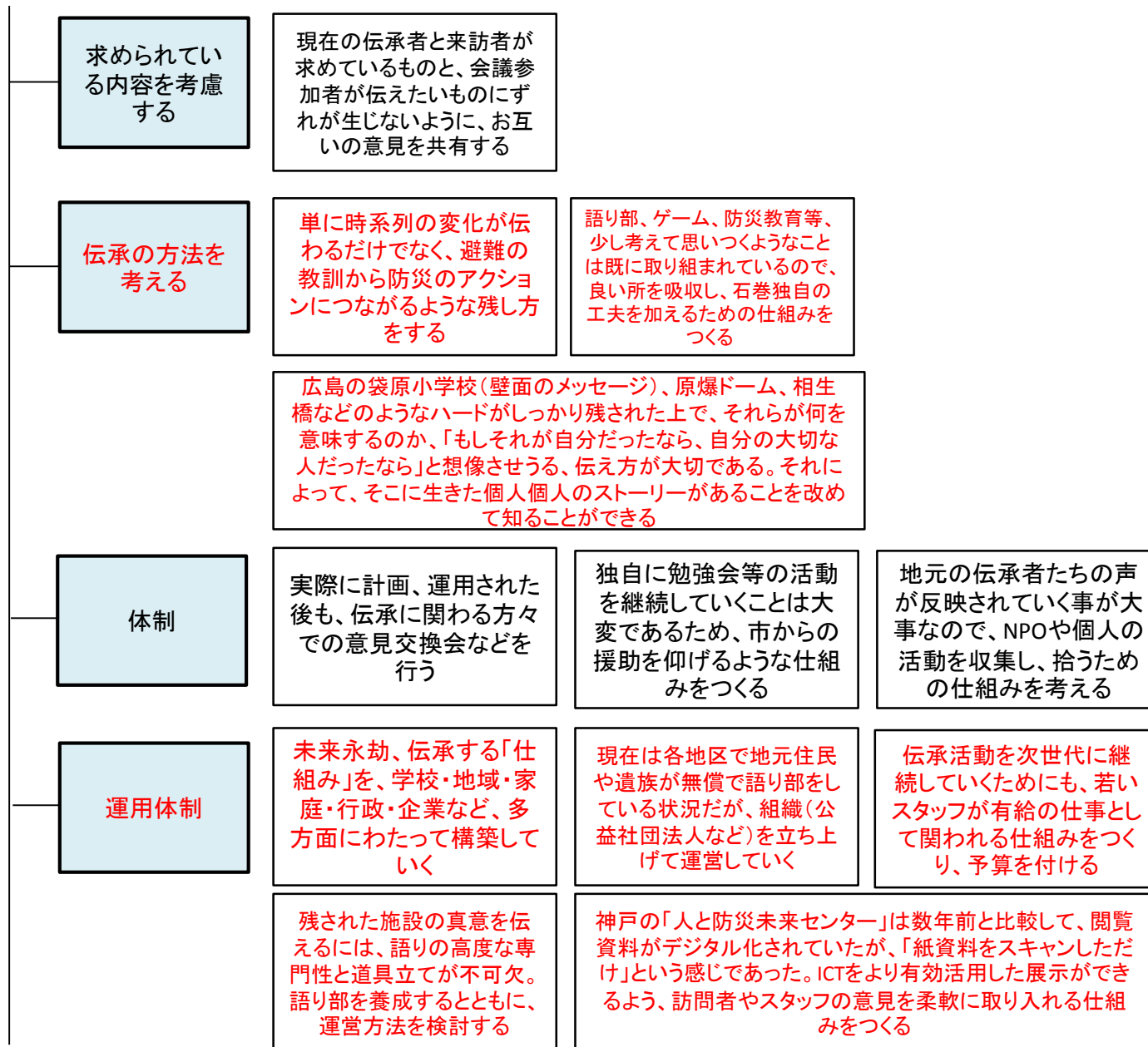
3. 伝承の方法



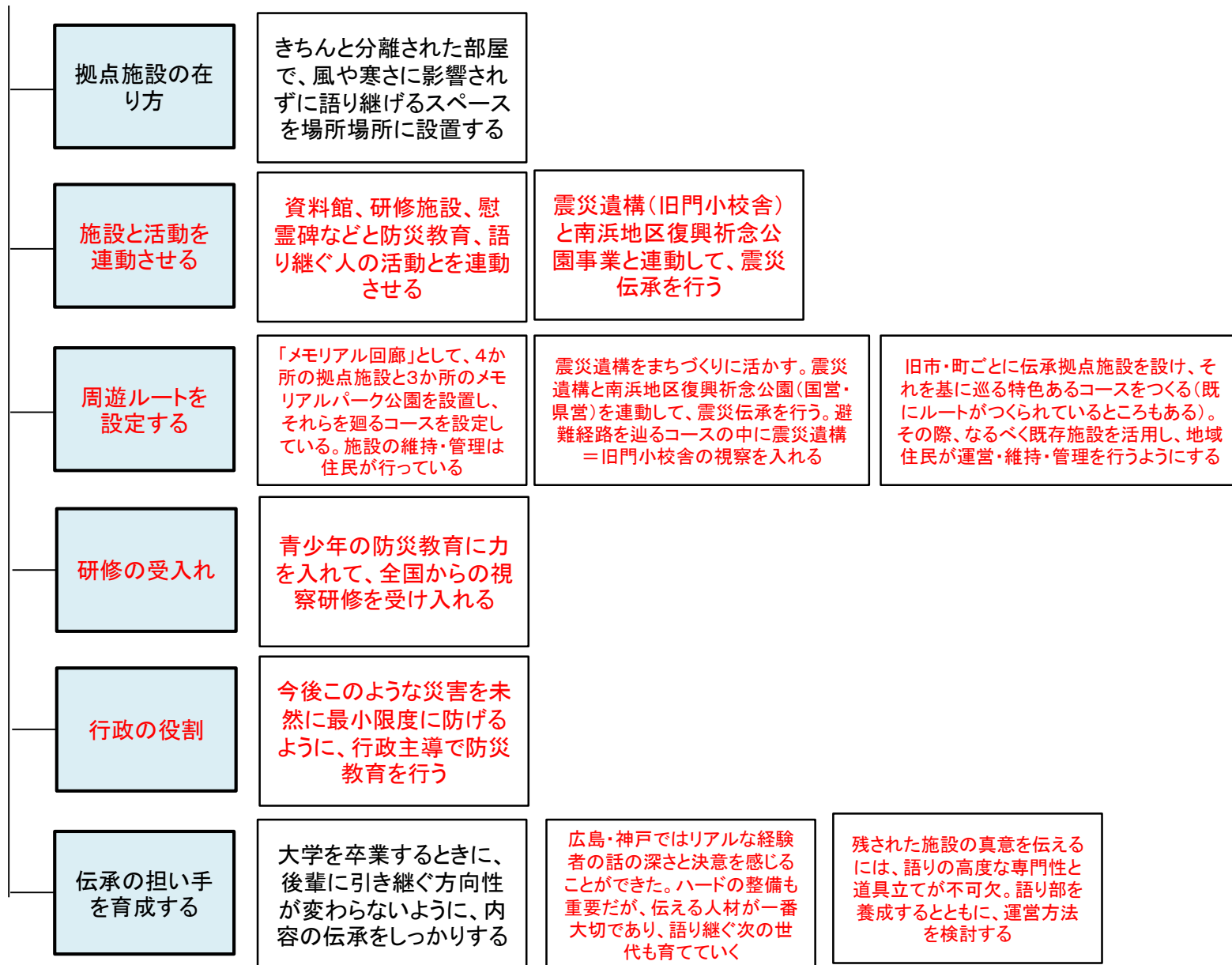
3. 伝承の方法



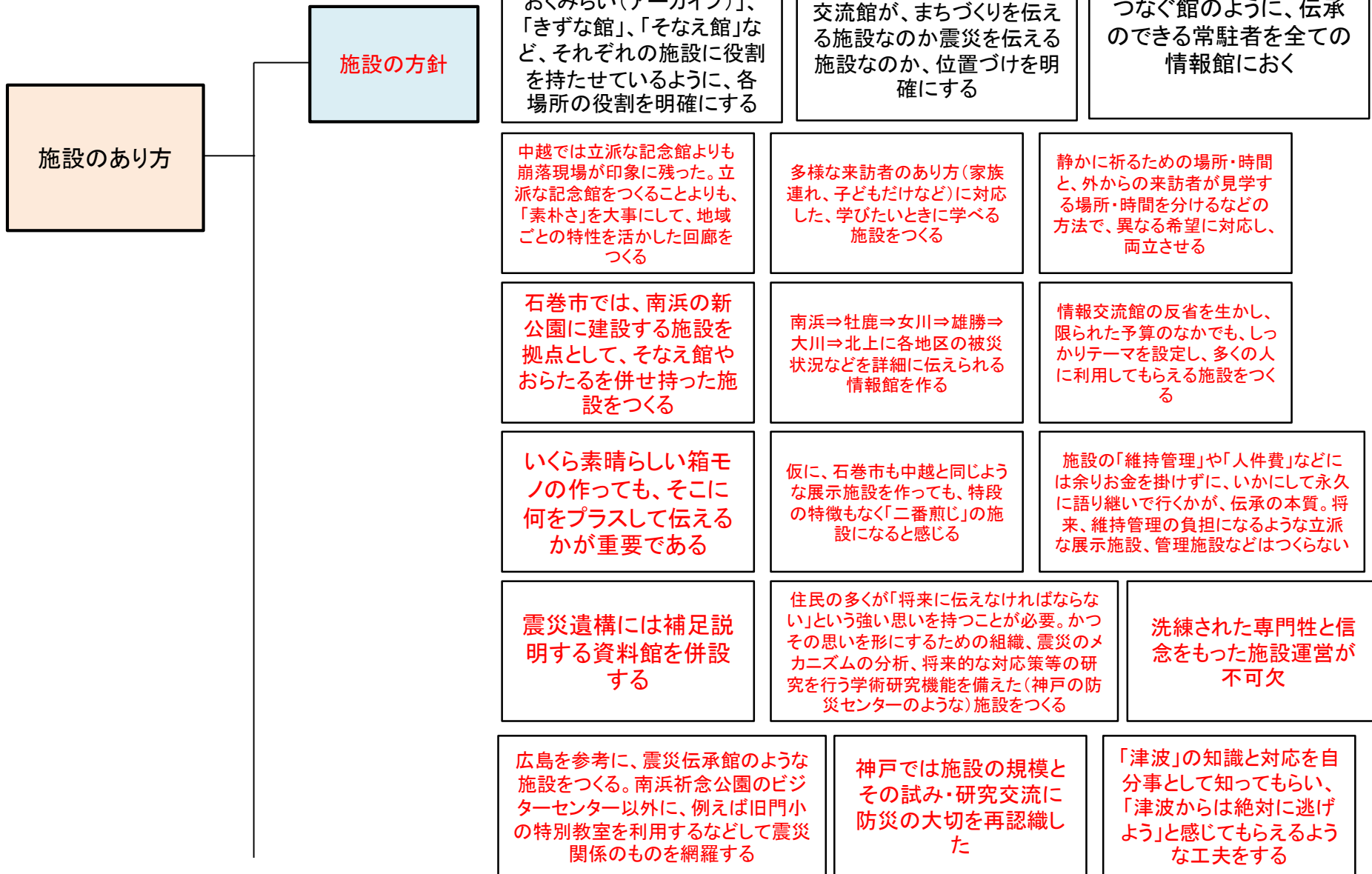
3. 伝承の方法



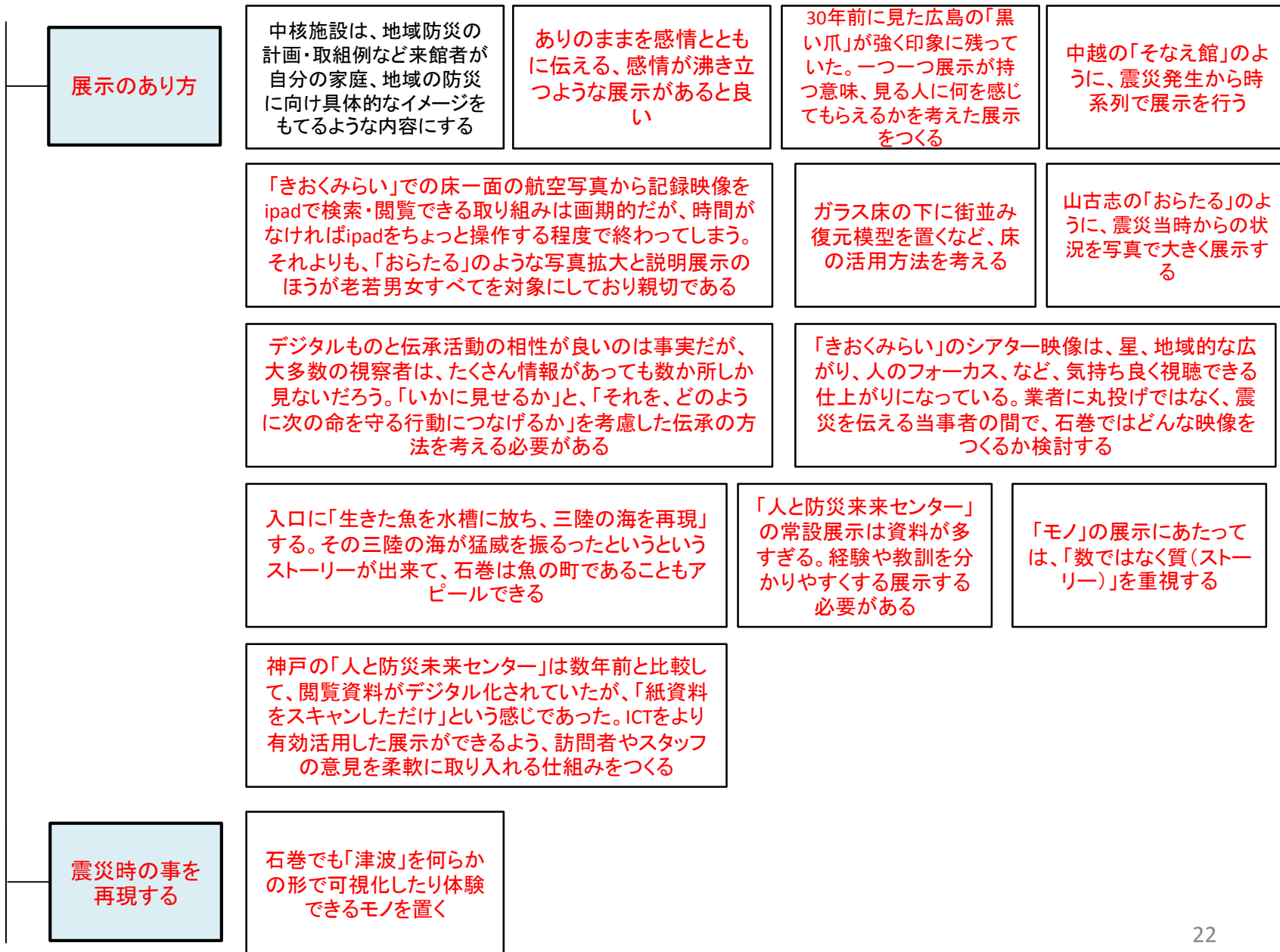
3. 伝承の方法



4. 施設のあり方



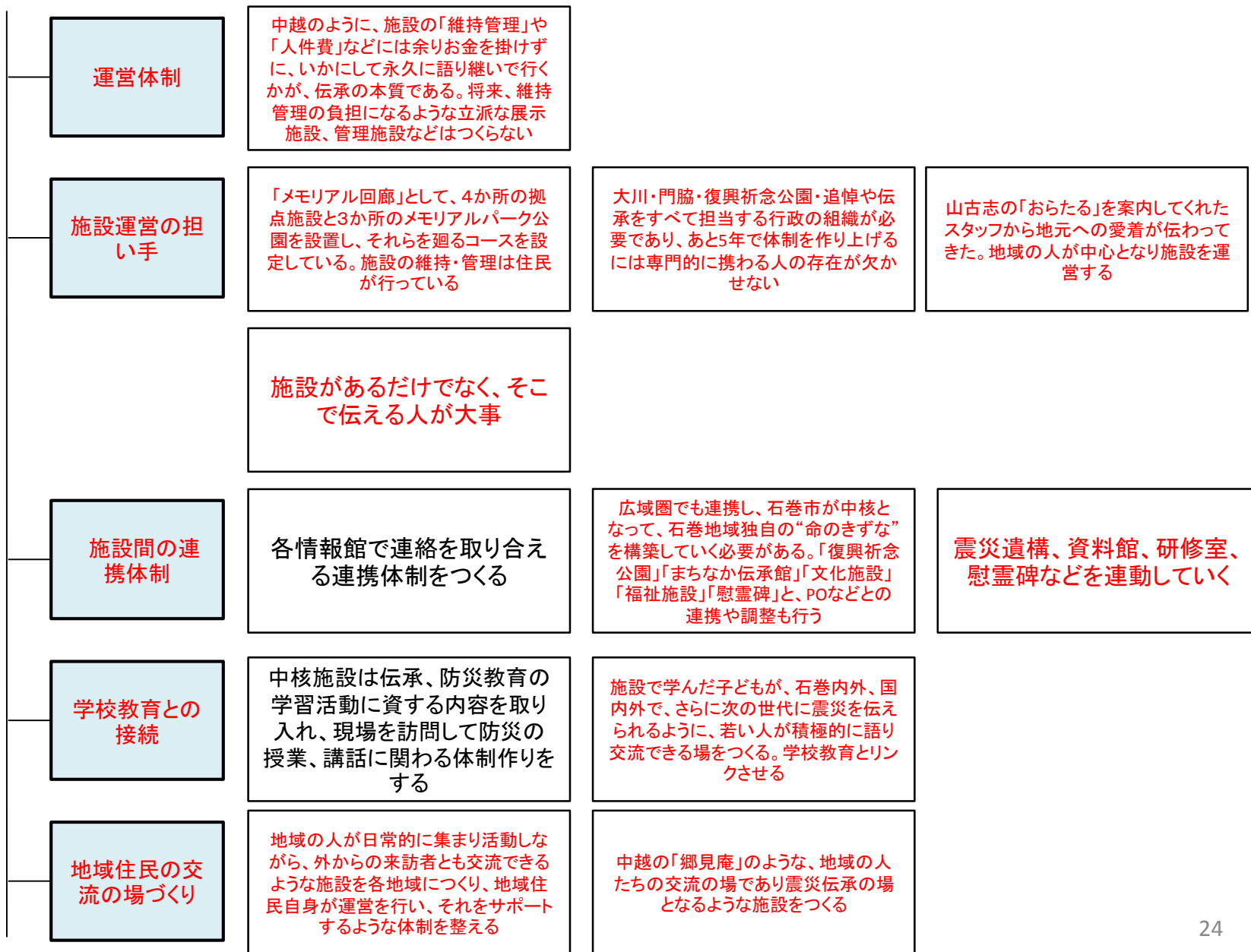
4. 施設のあり方



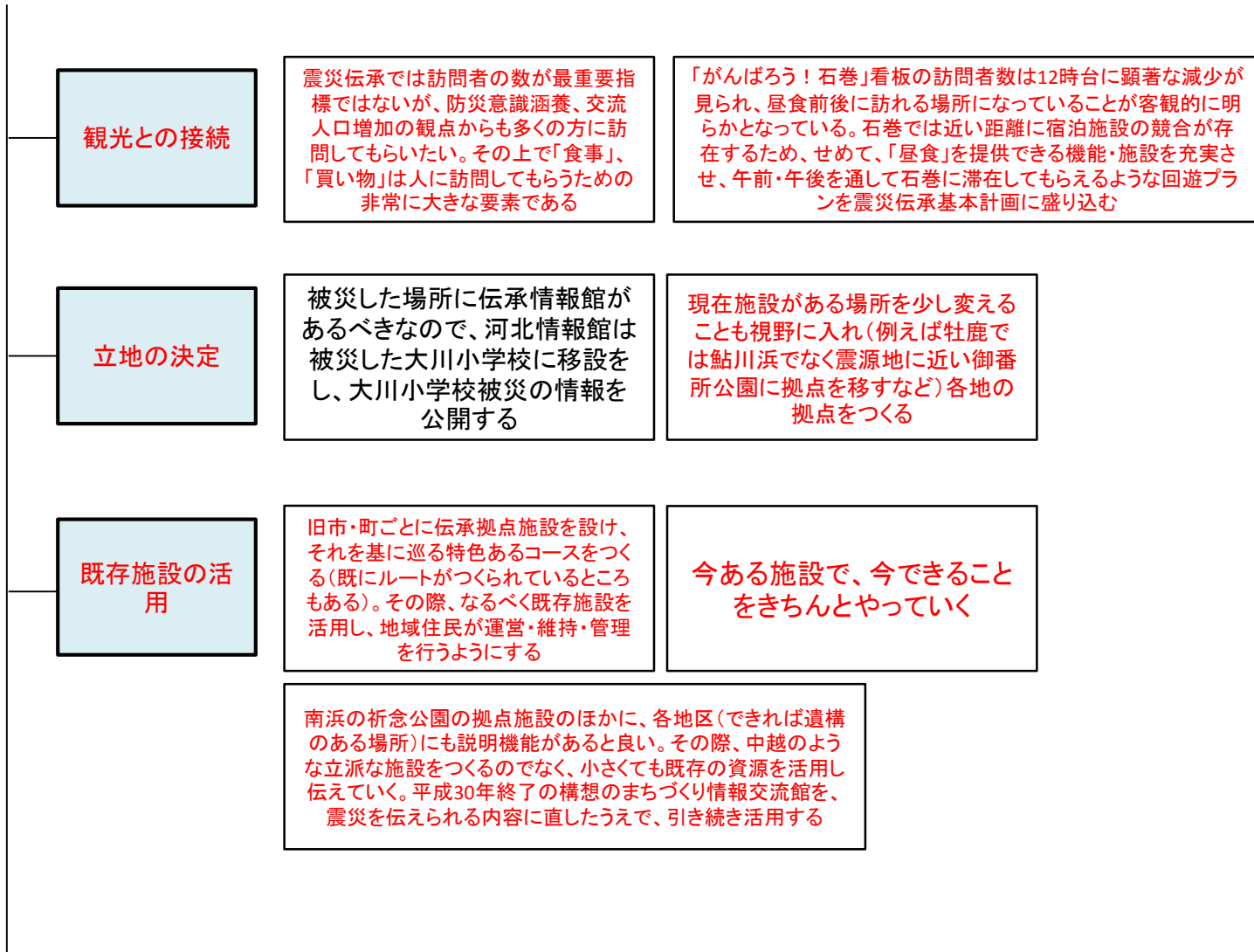
4. 施設のあり方



4. 施設のあり方



4. 施設のあり方



4. 施設のあり方

